

養鶏農協だより

—岡山県養鶏農業協同組合—

第8回養鶏振興審議会の審議経過

第8回養鶏振興審議会は、4月24日午前10時より農林省三番町分庁舎で開催されました。会長安田善一郎氏を議長として協議の結果次の3委員会を結成して審議し、その結果を全員による審議会に諮るという方法が採られました。

(1) 予定議題である

(1) 鶏改良の考え方について

(2) 鶏の経済能力検定について

の両議題を併せて審議する委員会

(2) 予定議題である

鶏卵食鶏の規格取引についてを審議する委員会

(3) 山上茂吉委員（この組合の組合長）が提案した

養鶏場用地に対する固定資産税の課税適正化を審議する委員会

それぞれ審議と経過の概要は次の通りでした。

(一) (1) 鶏改良の考え方について

この議題については、既に第7回審議会でも審議されたもので、昭和38年10月15日付で農林大臣へ提出した建議にもそれが盛り込まれていました。また、農林省大宮、岡崎両種畜牧場が移転することを決定したという事情もあって、当局は種々な機会をとらえ、あるいは会合を催して熱心に審議を尽くしていたので、原案として提出された「鶏改良の考え方とその方策」については、出席委員全員の賛成が得られました。但し「産卵能力検定事業は、現行の集合検定を経済能力検定に切りかえるとともに、将来は肉用鶏についても、検定を実施する」とある項については、経済能力検定を実施するには異論はないが、集合検定廃止には反対するという意見が多く、集合検定の存続実施を要望することに決定しました。

卵用種の改良方針としては、企業的大規模経営にも向く経済性の高い鶏、すなわちそろって丈夫に育ち、そろってよく産卵し、個々の鶏体について絶えず淘汰する必要のない強健性、それに加えて産卵能力や卵重などについての均一性、温和性などに優れ

た鶏の形質があげられています。改良施設は、原種造成育種を岡崎種畜牧場が担当し、10系統10,000羽の規模をもち、実用改良面は大宮種畜牧場が担当、白レグ8系統8,000羽、兼用種3系統3,000羽の育種規模をもつ構想です。また熊本、青森両種畜牧場は適地性検定場とし、府県段階の種鶏場はこれらの系統を純粋増殖してこれを民間へ流す役割をします。民間の育種種鶏場は、右3者と交流し、農林省系統と自場系統の改良と繁殖を行ない、優良実用雛を一般に提供する役目をします。

府県段階の種鶏場は、その飼養規模が試験研究用をも含めて全国合計で60,000羽に過ぎないので、これらの施設拡張とそれに対する国の助成が要望され、適地検定では、民間一般養鶏家の協力を得ることが必要であるとされました。

肉用鶏改良については、現在これを担当している兵庫種畜牧場の飼養規模が1,300羽と余りにも貧弱なので、少なくともこれを10,000羽に拡張することが要望されました。また、肉用種鶏は一応コーニッシュと白色プリマスロックの改良と普及をはかるが、その経済性特に雌の産卵能力向上による生産雛コストの低下をはかるとともに、現状ではニューハンプシャー等優良兼用種を雌系として改良することも必要である等の当局案を、一同了承しました。

(2) 鶏の経済能力検定について

来春より実施する予定で、具体的方法についてはなおよく研究するという当局の説明が了承されました。

(二) 鶏卵食鶏の規格取引について

提出原案の実施については時期尚早論が多く、大口生産者、大消費地より漸進的に行ない、経費負担の軽減と政府助成の適切が要望されました。

(三) 養鶏場用地に対する固定資産税の課税適正化

養鶏場用地が現在「宅地」として処理され、その

岡山畜産便り 1964.05

課税標準によって課税されるのは甚だ当を失しているが、畜産局の専門家にその研究を依頼して課税適正化をはかることに決定しました。

総会開催通知

左記によりこの組合の第15回通常総会を開催します。

記

- 1、5月22日午前10時半より岡山駅前三好野会館
5階大ホール
- 2、議事、行事、懇親会は例年の通りです